

# 横見郡の式内社(三社)

比企郡吉見町には、北から高負彦根(高負比古)神社・伊波比(いわい)神社・横見神社の三社が式内社として存在  
(横見郡という小さな郡に式内社が三社あることの特異性から、この地が古代において非常に重要な地であったと考えられているとのことです)

## 横見神社

まずは横見神社です











拝殿



境内から鳥居を見る



右の覆屋の中に本殿があり、古墳の上に建っているという





古墳の高まり



前方も稲荷塚という円墳となっている/左手は調査隊の車







境内社(稲荷社)も円墳(稲荷塚)の上に建っている





境内から見る







もう一度外周から見る



## 横見郡 (【ヨコミ郡】現・埼玉県比企郡吉見町)

3座 (小社3)

### 『横見神社』

**横見神社** (郷社・比企郡吉見町黒岩鎮座)

祭神：建速須佐之男命・櫛稲田比売命

創建は和銅年間(708-715)。当社は吉見丘陵の東端に近い平野部に鎮座。付近には「稲荷前遺跡」(古墳時代の集落跡)「御所古墳群」がある。境内末社の稲荷社も稲荷塚という円墳の上に鎮座。本殿も古墳の上にある。

境内にあった松の大木(周囲4.5メートル)は神木として「横見の松」と呼ばれていたが、台風で折れてしまい、今はその根だけが残っている。この木の下に石室があり、豪族の墳墓ではないかとされている。

中世には「飯玉氷川大明神」と呼ばれ穀物の神として崇敬。

慶長年間(1249-56)に当社は大洪水によって流され、御神体が漂着した南の吉見町久保田ではこれを貴い神の御来臨とされ当社分社の「横見神社」が祀られている。

以前は祭神に宇迦魂命をも祀っていたが、明治5年に古墳保全の意味も含めて境内末社の稲荷社が創建されたときに遷座。

また横見神社に関しては吉見町上細谷鎮座の氷川神社(詳細不明)や大里町相上鎮座の吉見神社(詳細不明)とする説もある。

参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/engisiki/musashi/bun/mus170501-01.html>

伊波比神社

次は伊波比神社です



瓦の載った鳥居









本殿





境内社の岩崎神社

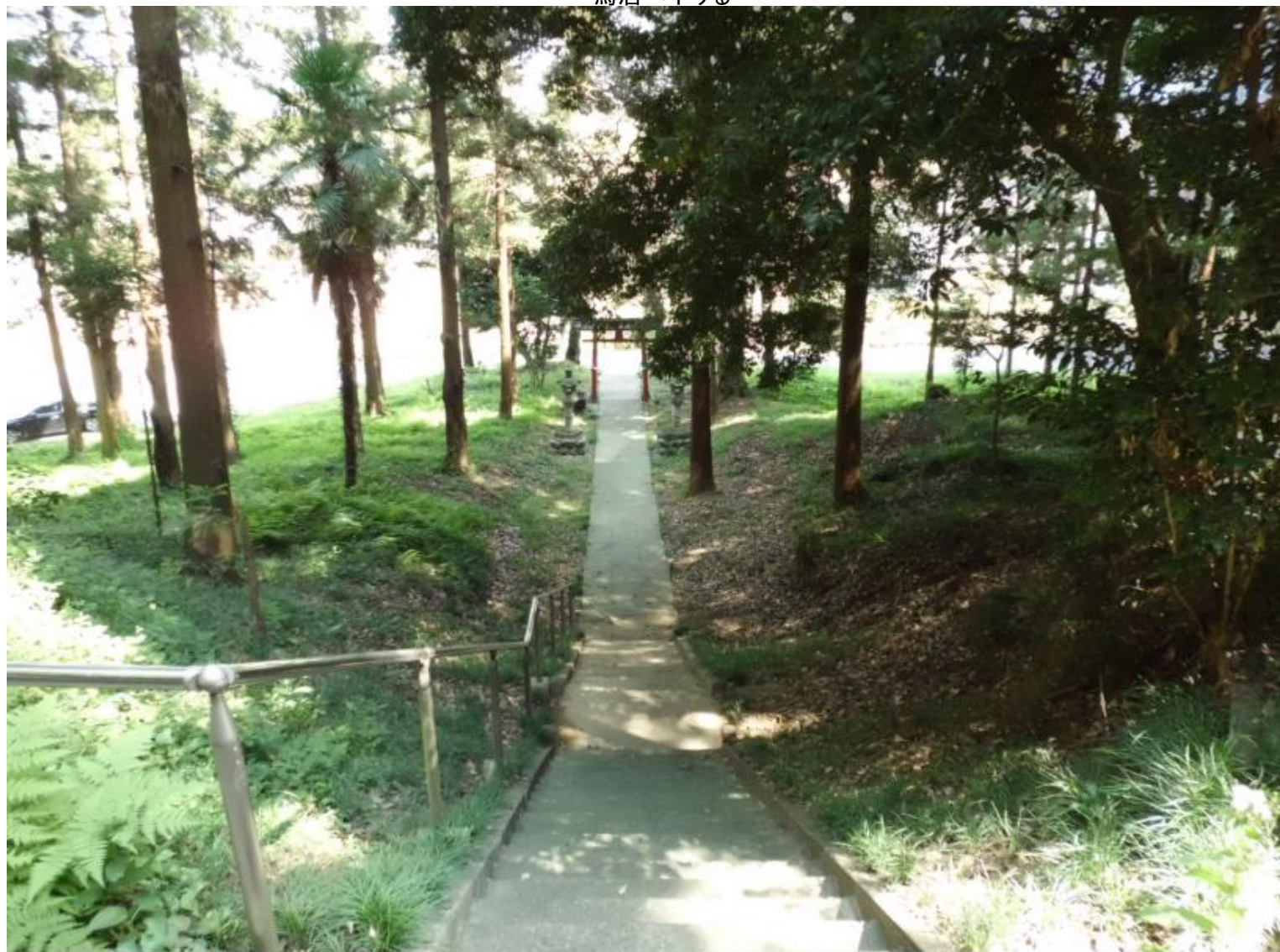


祠のみ





鳥居へ下りる



もう一度下から見上げる



## 『伊波比神社』

**伊波比神社**（いわい神社・村社・比企郡吉見町黒岩鎮座）

祭神：天穗日尊（アメノホヒ尊）・誉田別尊（ホンダワケ尊＝応神天皇）

吉見丘陵の東端部、旧荒川筋沿いに鎮座。付近は500基以上が確認されている一大古墳群地帯。

安閑天皇元年（534）に武蔵国造の地位を巡って争いが行われ、朝廷に献上された「横見郡」が屯倉（＝天皇直轄地）に定められたために周辺地域に式内社三座が集中している。

当社は和銅年間（708－715）の創建と伝える。嘉祥2年（849）に伊波比神社は従五位下に敍せられ、貞観元年（859）に磐井神として官社列格。平安期においても朝廷から地方の有力神社として認められていた。

中世期には源範頼（頼朝の弟）の所領となり、子孫が吉見氏として四代続き、在地信仰として機能。このころは岩井八幡宮と称され社号額も旧社号のまま残されている。

従来は大己貴命ともいわれ、誉田別尊は合祀したものであったが、誉田別尊が崇敬を集め、旧祭神は忘れ去られたという。またかつては単に「八幡社」と呼ばれ、現在の社殿の西方にある「八幡台」と呼ばれているところが旧境内であるといわれている。応永初年（1394）ごろに現在地に移転した。

参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/engisiki/musashi/bun/mus170503-01.html>

## 八丁湖

伊波比神社から高負比古神社へ向かう途中にある八丁湖



# 八丁湖公園 園路案内図

- 体カづくりコース
- ジョギングコース (2,100m)
- ウォーキングコース (1,500m)
- トレッキングコース (500m)



- 散策道
- 丘陵コース (391m)
- 自然植物観察コース (265m)
- 野鳥観察コース (384m)

吉見町役場 まち整備課  
0493(63)5018

※コース内から山林への立ち入りは危険ですのでやめましょう











高負比古神社



←八丁湖

←横見神社



伊波比神社

参考ホームページ

<http://blogs.yahoo.co.jp/sunekotanpako/34583715.html>

高負比古神社

この正面の道を登ります





高負比古神社が見えてきます











「高負彦根神社」とある



# ポンポン山公園 →

案内図



高貴原神社  
ポンポン山公園

## 獅子封じ塚

昔、高生郷（現在の田甲）には、獅子舞いの古い行事がありました。

今から、数百年前ごろの旧暦六月の某日、悪疫退散のため、獅子頭を冠り、戸毎を訪問する行事が行われておりました。しかし、ある年、痢病が著しく発生し、死者も多く出たので、村人たちは、これは産土神のお咎めではないかと恐れ、獅子頭を境内に埋没し、その上に、終（昭和十二年に大終は、県指定文化財となるが、現在は二代目）を植えて、獅子封じをしました。それ以来、痢病もおさまり、平和になったと言われています。

※痢病：腹痛や下痢の激しい伝染病の類。

※産土神：その生まれた土地を守護する神、鎮守の神。

※高負彦根神社の三鉢：湊石（獅身怪）・大終・菊水（湧水）

# 吉見八景案内図



吉見町

## ボンボン山（玉ほこ山）

昭和61年3月、私たちの住む郷土を再発見し、より良い町づくりを—と吉見町コミュニティづくり推進協議会は、吉見八景の選定を行いました。

ボンボン山は武蔵地方最古の高負彦根神社の境内裏にあり、岩山の中腹を踏みたたくと「ボンボン」と音がするところから、その愛称がつけられました。遠く赤城、男体、筑波の山々を見渡すながめは絶景です。

「大野氏 先祖」とある







平成二年に再建された社殿





境内から鳥居を見る







こんなのもありました



# ボン。ボン山（高負彦根神社）

延喜式内社で昔は玉鉾氷川明神とも称した。  
祭神は、味鋌高彦根尊・大己貴尊とされるが素戔鳴尊ともいわれる。

社記によれば、和銅三年（七一〇年）創建と伝えられる古社で宝龜三年（七七二年）十二月十九日の太政官符に「案内ヲ檢スルニ、去ル天平勝宝七年（七五五年）十一月二日ノ符ニアグ。武蔵国幣帛二預ル社四處」として、その一つに「横見郡高負比古乃神」と記してある。

社殿の後方の巨岩に近い地面を強く踏むとボンと音を発する。そこでこの山をボンボン山とも言う。巨岩の直下二十メートルの平地は古代荒川の流路であった。吉見丘陵の東端をめぐった荒川流域に式内三社が存在したのはこの地域が早くから開発が進んでいたことによるものと思われる。

平成十年三月

吉見町・埼玉県



ボンボン山



音のあずま石



ハナ

〒350-0201 埼玉県吉見町  
高負彦根神社  
TEL 048-952-1111  
FAX 048-952-1112  
HP http://www.takafuhikone-jinja.jp





# ボンボン山(高負彦根神社)

延喜式内社で昔は玉鉾氷川明神とも称した。  
祭神は、味鋸高彦根尊・大己貴尊とされるが素戔嗚尊ともいわれる。

社記によれば、和銅三年(七一〇年)創建と伝えられる古社で宝龜三年(七七二年)十二月十九日の太政官符に「案内ヲ檢スルニ、去ル天平勝宝七年(七五五年)十一月二日ノ符ニアグ。武蔵国幣帛二預ル社四処」として、その一つに「横見郡高負比古乃神」と記してある。

社殿の後方の巨岩に近い地面を強く踏むとボンと音を発する。そこでこの山をボンボン山とも言う。巨岩の直下二十メートルの平地は古代荒川の流路であった。吉見丘陵の東端をめぐる荒川流域に式内三社が存在したのはこの地域が早くから開発が進んでいたことによるものと思われる。

平成十年三月

吉見町・埼玉県



ボンボン山



音の発する所

4、15

天オ

丸

八

高負彦根神社  
埼玉県吉見町  
〒370-0101  
高負彦根神社  
高負彦根神社  
高負彦根神社

裏のポンポン山です





岩山です







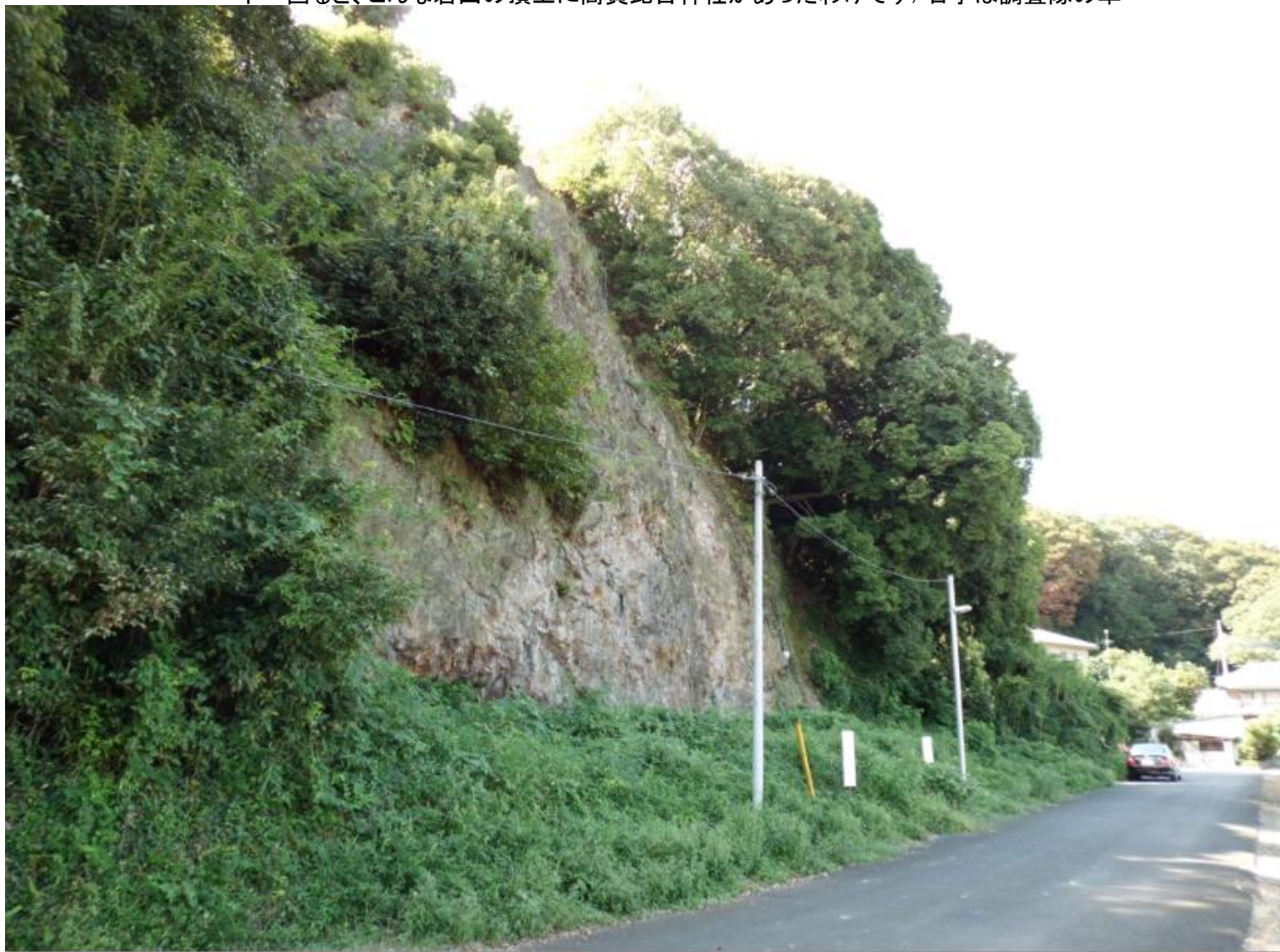


ポンポン山から遠方を眺める





下へ回ると、こんな岩山の頂上に高負比古神社があったわけです/右手は調査隊の車





## 『高負比古神社』

**高負彦根神社**（たかおひこね神社・村社・比企郡吉見町田甲鎮座）

祭神：味耜高彦根尊・大己貴尊（一説に素戔鳴尊）

和銅3年（710年）創建と伝えられる古社。田甲の地は旧荒川の水利とともに交通の要所であり、そこに玉鉾山が突きでており、その頂上に当社が鎮座している。周辺は「高負彦根神社周辺遺跡」として奈良時代の集落跡が残る。このあたりの丘陵と沼は「荒川」が作りだしたものであるとされ、このポンポン山の下もかつては「荒川」の流路であった。吉見丘陵東端には古墳群、そして式内社3社が存在していたことから、この地域が古くからの開発地域であったことがわかる。

当社の祭祀には吉志（ぎし）氏（壬生吉志・渡来系氏族＝屯倉管理か？）が関係していたとされる。横見郡三座のうちでもっとも古く、天平勝宝7年（755）に官符がひかれており（入間郡の正倉火災に関係）、奈良時代にはすでに官社となっていた。

中世以降は衰退し不明。「玉鉾氷川名神社」と称していた。氷川社となったのは天穗日命の6代、五十根彦命の別名を高負比古命とする氷川神社宮司家の伝承によるものという。天明3年（1783）に再興。

祭神はいずれも出雲系であるが素戔鳴尊が混入したのは牛頭天王信仰によるものとされる。

ポンポン山（別名玉鉾山）と呼ばれる標高38Mの小山（磐座）の頂上に鎮座している。社殿後方の巨岩に近い地面を踏みならすと「ポンポン」と太鼓のような響きがするために「ポンポン山」と呼ばれている。この響きには地下に洞穴（空洞）があるという説と、ローム層と砂岩の境界面で音波がはねかえるという2説がある。

説話として、何者かがこの山に財宝を埋めておき、盗まれぬようにするにはどうしたらよいかを当社に伺い立てたところ、神のお告げはこのまま霊地に埋めておくようにということであった。すると不思議と盗人が入り込むとポンポンと山なりがして身震いが止まらなくなるので、いかなるものも財宝を盗み出せなくなった、とされている。

また高負比古神社に関しては吉見町上細谷鎮座の氷川神社（詳細不明）とする説がある。

参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/engisiki/musashi/bun/mus170502-01.html>